

ミカワホラヒメグモ *Nesticus mikawanus* Yaginuma

【選定理由】

豊橋市嵩山町の洞窟群にのみ生息する。模式産地は新穴で、1979年に新種記載された(八木沼, 1979)。県内唯一の固有種である。洞窟群のうち、調査できたのは蛇穴と水穴だが、どちらも個体数は少ない。

【形態】

体長 4~5mm。頭胸部は赤褐色で腹部は黄褐色。

個体により黒色の斑紋があるものと無斑型のものがある(新海, 2006)。雄の触肢の小杯葉は大きく、指を広げたような形をしている。この小杯葉の特異な形が分類上の要点となる。特に形態的に見て、本種は他の群との関連がないと報告されている(T. Yaginuma, 1979)。



豊橋市嵩山町(蛇穴), 2008年7月6日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

愛知県固有種で、豊橋市嵩山町の洞窟群(蛇穴・新穴・水穴・長彦洞・カエル洞)にのみ分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

蛇穴では洞窟の入り口より、10~30メートルの間に生息することが多い。壁面の窪みなどに不規則網を張る。網の上部に静止する雌成体は周年みられるが、雄成体は春秋の時期に限られる。

【現在の生息状況／減少の要因】

2006年から2018年の蛇穴の調査では8~22頭が確認された。増減の要因は不明だが、現在の環境が維持されれば、個体数は維持されると思われる。

【保全上の留意点】

蛇穴は自由に出入りができ、環境悪化が懸念される。立ち入りは研究目的のみにすべきである。

【特記事項】

県条例に基づく指定希少野生動植物種に指定されている。

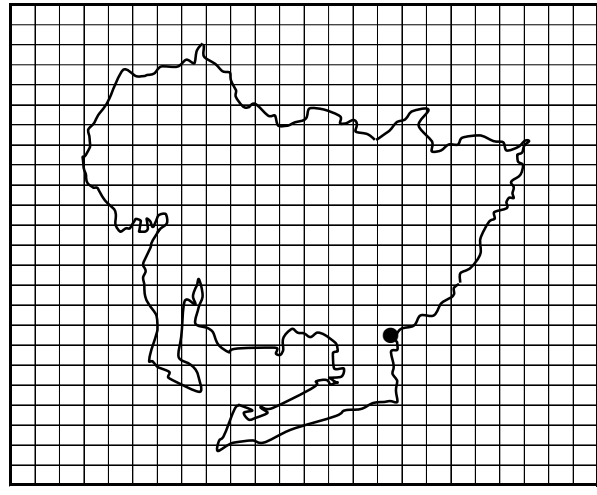
【引用文献】

T. Yaginuma, 1979. A Study of the Japanese Species of Nesticid Spiders. 追手門学院大学文学部紀要, 13: 255-287.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.22. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.57. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.196. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.347. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.222,524. 東海大学出版会部, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)